

南アルプス市 社会福祉協議会
社協だより

最優秀賞



こんにちは、しゃきよんです。
たくさんの方のふくしポスターの
応募、ありがとうございます。

令和2年度 小中学校ふくしポスター 最優秀作品

若草中学校3年 小野 和奏さんの作品です

目次

- ◆共同募金・社協会費中間報告 ……………2~3
- ◆第17回社会福祉大会開催 ……………4~5
- ◆知ることによって変わるこれからの共生社会 ……………6~7
- ◆しゃきよんが行く 評議員の紹介 寄附報告 ……8



皆様からの善意のご協力 ありがとうございます

(共同募金南アルプス市支会事務局より)



赤い羽根共同募金

じぶんの町を良くするしくみ。



令和2年度赤い羽根共同募金中間報告

(令和3年1月31日現在)

共同募金は、戦後間もない昭和22(1947)年に、市民が主体の民間運動として始まり、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われました。その後、法律(現在の「社会福祉法」)に基づき、地域福祉の推進のために活用されています。

皆様からの善意は、様々な福祉活動や、地域福祉の推進、災害時支援などに役立てられます。社会福祉協議会も共同募金の配分を受け、様々な事業を行っております。

募金種別	金額(円)	説明
家庭募金	9,435,542	自治会長・組長さんのご協力で、市内の各世帯へお願いしたものです。
街頭募金	31,292	店頭や社協のイベント等で行った募金です。
大口募金	1,059,170	市内の企業・団体からいただいた募金です。
職場募金	862,996	事業所・職場等で行われる自発的な募金です。
特殊募金	69,411	小・中学校の児童会・生徒会、高等学校単位で集める自発的な募金です。
自動販売機募金	12,271	自動販売機の売上の一部が募金になります。(設置場所:社協本所、デイサービスゆうかり)
合計	11,470,682	

共同募金のつかいみちは
こちらをご覧ください⇒



赤い羽根共同募金のつかいみち
赤い羽根データベース
はねっと

共同募金の配分金で行っている事業を紹介します

●福祉車両の貸し出し事業……………

社協では共同募金の助成を受けて購入した、福祉車両の貸し出しを行っています。

- 利用できる方は？
 - ・介護を必要とする高齢者(市内在住者)
 - ・車いす利用者など
- サービスの内容は？
 - ・利用範囲は県内に限ります。・原則として利用日の5日前までに申し込みが必要です。・貸し出し期間は1日以内です。
 - ・運転手は利用者が確保してください。
- 利用料は？
 - ・貸出に関しては無料です。
 - ・返却時にガソリンを満タンにしてください。

通院や外出など車の乗り降りが大変。車いすごと乗れる車があったら助かるな。という方ぜひご利用ください。



車いすのみの貸し出しも行っていきます。

●ふれあい広場事業……………

対象地区の自治会へ事業費の助成を行っています。

- 助成の流れは？

事業を行う前年度に地区から申請を受け、翌年度に事業費を配分します。(令和3年度実施地区は白根、櫛形地区です)
- 内容は？

地域の交流拠点の整備などに使っていただけるものです。令和2年度は八田、若草地区にて地域拠点の改修(集落センターの壁貼替、エアコン整備、トイレ改修工事など)や備品整備に配分しました。

加賀美区トイレ改修



改修前



改修後



皆様からの社協会費へのご協力ありがとうございます

今年度は新型コロナウイルス感染への対応が長期化する中ではありますが、多くの方から社協会費へのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

南アルプス市社会福祉協議会では基本理念である「わたしがつくる みんなでつくる 住民自立のまち」を進めていくために、社会福祉事業の財源として様々な事業に活用させていただいております。

令和2年度社協会費中間報告

(令和3年1月31日現在)

区分	地区	金額(円)
一般会員 (自治会)	八田	1,587,000
	白根	4,720,000
	芦安	107,000
	若草	2,529,000
	櫛形	4,593,400
	甲西	2,953,000
合計		16,489,400

区分	金額(円)	説明	
一般会員	個人	114,000	社会福祉事業を行う個人
	団体	54,000	社会福祉事業を行う団体
賛助会員	個人	0	社会福祉協議会の趣旨に賛同する個人
	団体	20,000	社会福祉協議会の趣旨に賛同する団体
合計	188,000		

社協会費と共同募金の配分金を財源とした多くの事業を行っています

- おやつサービス事業
- ボランティア事業
- ボランティア団体育成事業
- 地域交流拠点事業
- ふれあい・いきいきサロン助成(あったかサービス事業)
- 地域における減災・防災のまちづくり事業
- みんなで地域をよくする事業
- 歳末たすけあい(小学生学用品支援)事業
- ふくしのこころを育む事業
- 社会福祉大会開催事業
- 広報誌(ボランティア情報誌、社協だより)発行事業 ほか


●地域における減災・防災のまちづくり事業(防災学習会).....

社協では防災をキーワードにしたまちづくり事業を行っています。近年頻繁に発生している大規模な自然災害は、南アルプス市でも起きる可能性があります。


令和2年の9月に行った学習会では、いつ起きるかわからない“災害”と“新型コロナウイルス”との向き合い方を参加者同士で学びました。


在宅時間が長い“今”だからこそ家族で災害時の避難方法の確認をしておくことをお勧めします。

もしも、`今、`**災害**が発生したら、あなたは、 どんな避難方法を選択しますか？




自宅避難







親類・知人宅へ避難



テント避難



避難所へ避難



車中避難

参加者の声

個人で避難時の事前シミュレーションをしておくことが必要だね。

地区の訓練時に情報を共有しておくとういよね。

個人個人が、防災に対して意識を持つことが大事だね。

第17回

Minami Alps City Social Welfare competition

南アルプス市社会福祉大会

～あったか色のまちづくりをめざして～

福祉の視点から地域を伝えるフリーマガジン「anko」編集部から見た社会福祉大会の様子

令和3年1月17日(日)に、「第17回南アルプス市社会福祉大会」が開催されました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参加人数を限定した中での開催となりました。

一人でも多くの方に当日の内容がお届けできるよう、この紙面にてお伝えします。

今回は、第2部で講演を行った、福祉の視点から地域を伝えるフリーマガジン「anko」編集部とのコラボレーションでお伝えします。

「南アルプス市＝福祉のまち」を目指す南アルプス市



第一部は、社会福祉協議会・笹本彰会長の挨拶、来賓の金丸一元市長、飯野久市会議長の祝辞から幕を開けました。その後、会長表彰・ふくしポスター入賞者あわせて15名の表彰式が行われました。第二部は、福祉の視点から地域を伝えるフリーマガジン anko 編集長による講演会が行われました。

南アルプス市社会福祉協議会会長表彰

民間社会福祉施設・団体役職員功労

民間社会福祉施設・団体の役職員として
12年(県内)以上在職し、その功績が顕著である方

向井 要子さん 功刀 愛理さん 梅津 唯さん

社会福祉協議会役員功労

社会福祉協議会役員並びに評議員で、9年以上在籍し、その功績が顕著である方

山下 賢二さん 篠原 操さん

令和2年度小中学校ふくしポスター入賞者表彰!

「㊦だんの㊧らしの㊨あわせ」をテーマに、応募総数750点の中から選ばれた10名の表彰が行われました。一枚一枚、福祉への想いが描かれた作品は、会場の入口に展示され彩りを添えました。

👑 最優秀賞

ふだんのくらしのしあわせ

福祉というと難しく考えてしまうけれど、日々の暮らしや普段の何気ない生活の中に、当たり前になればいいなと思いました。

若草中学校3年
わかな
小野 和奏さん



👑 優秀賞

いっぱい、やさしいところ

ハートはやさしいところ。ピンクの絵の具をしゃぼん玉に入れて画用紙に吹き付けて、いっぱいハートを作りました。

若草小学校1年
みおり
吉澤 美織さん



👑 優秀賞 あったかい心を大切にしよう



一緒に暮らしている祖母をモデルにしています。「支える・助ける」ことが大切ということを描きました。

るな
落合小学校4年 塩澤 瑠南さん



👑 優秀賞

この手で運ぼう、思いやり



車いすの方や高齢者の方など一人ひとりに手を差し伸べていくことが、暮らしやすい町をつかっていくのに必要だと思います。

白根御勅使中学校2年
ゆい
石川 優衣さん



👑 佳作 ふだんのくらしのしあわせ

家族が全員揃って笑顔でご飯を食べられることが、ふだんのくらしであって、しあわせだと思います。描きました。



あおと
若草南小学校3年 深澤 蒼翔さん

👑 佳作 えがおがいちばん

家族みんなで一緒にいるのがしあわせだと思ったので、大好きないちごのショートケーキを家族で食べているところを描きました。



ともき
若草南小学校3年 磯野 智貴さん

👑 佳作 みんな笑顔に



世界が平和に。世界中が笑顔に包まれるようにという想いを込めて、自分の指でハートを表現してみました。

いぶき
大明小学校5年 田中 萌希さん



👑 佳作

思いやりの心



ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんをモデルにして、たくさんの愛が伝わるように、想いが届きますように描きました。

櫛形西小学校4年
杉山 みまるさん



👑 佳作

染まれ、あたたか色

あたたか色に染まれば、どんな人でも笑顔になれることを暖かい色を使って表現しました。



若草中学校2年
はる
上野 晴さん



👑 佳作 あたりまえを大切に

当たり前にある幸せを大切にしていこうという想いから、背景の色を柔らかくし、抽象的に描きました。



まりな
白根御勅使中学校2年 三井 万莉奈さん

Social Welfare competition



社会福祉大会

第二部講演

PROFILE

1982年生。南アルプス市内にて、夫と子ども2人とともに暮らす。20歳の時に出版社へ入社、2017年に退職。1年間のフリーランスを経て2018年「anlib株式会社」を設立。1年後、福祉の視点から地域を伝えるフリーマガジン「anko」を創刊。

アンリブ
anlib株式会社 代表取締役
フリーマガジン「anko」編集長
ユニバーサルデザインコーディネーター

堀内 麻実

mami horiuchi

知ることで かわる これからの 共生社会

Future symbiotic society
that changes by knowing

デザイン会社「anlib株式会社」を設立した理由

長きに渡り、出版業界で働いていました。職場ではありがたいことに、責任のある仕事を任せてもらえるようになりました。しかしその一方で、家族との時間が減っていく寂しさを抱え、やがて自身の働き方に疑問を感じるようになっていきました。仕事と家庭の両方を充実させたい…いつの日からかそう強く思うようになったのです。そして、小さくても良い、私と同じ思いを持つ人がいるのなら、それを受け入れられる会社をつくりたいと夢見るようになりました。2017年に長年お世話になった会社を退職、1年間の準備期間を経て2018年に女性クリエイターがメインで活動するデザイン会社「anlib株式会社」を立ち上げました。

福祉の視点から山梨を伝えるフリーマガジン「anko」を発行

私の周りには、高齢出産や低体重児出産、親の介護・看取りを経験した人など、様々な人がいます。子どもたちの暮らしを覗いてみても、海外の子や障がいのある子と当たり前で過ごす日常が見られます。私たちの暮らす地域には、すでに多様な暮らしが当たり前で存在しているのです。しかし、今までそのことに目を向けてきませんでした。「福祉ってなんだか難しそう」、そんな言葉だけで後回しにしてきたのだと思います。

ある時、障がい者や要介護者の暮らしは、日常のすぐ隣にあることを思い知らされました。そして、そのことをもっと多くの人に伝え、未来を生きる子どもたちに小さな贈り物として残していきたいと思うようになりました。こうして、2019年に「anko」を創刊。本業で得た収益の一部を活用して、半年に一度自費出版というカタチで発行を続けています。

発行中の
anko vol.4の表紙



気づき、知り、そして混ざり合う

Awareness, knowing, and mixing

「知りたい」と思う仕掛けをつくること

ankoの取材を通じて改めて感じたことは、「お互いが知り合う（混ざり合う）ことが大切である」ということです。誌面では、障がい者や高齢者、貧困や地域活動など幅広い視野で様々な特集を掲載しています。当事者の活動だけではなく、その人の背景やそれに関わる人の視点からも取材し載せているのは、ankoらしいと言えるのかもしれませんが。

単に「知ってほしい」では人の心は動かないものです。そこには、「知りたい」と思わせる仕掛けが必要なのです。これからの共生社会のために私たちが今できることは、デザインの力で様々な仕掛けをつくり世に送り出すことだと思っています。

ankoの発行以外にも私たちは、「福祉を知る」ための活動をいくつか行っています。障がい者や高齢者がつくったモノと地域にある人気店のモノとが交流する未来につながるセレクトショップの運営や医療・福祉の仕事の魅力を伝える取材記事の発信、ユニバーサルデザインの視点で提案するオリジナルブランドなどです。

私は、「福祉×デザイン」に大きな可能性を感じています。それは、未来がより豊かな共生社会になるために必要なものだと確信しているからです。

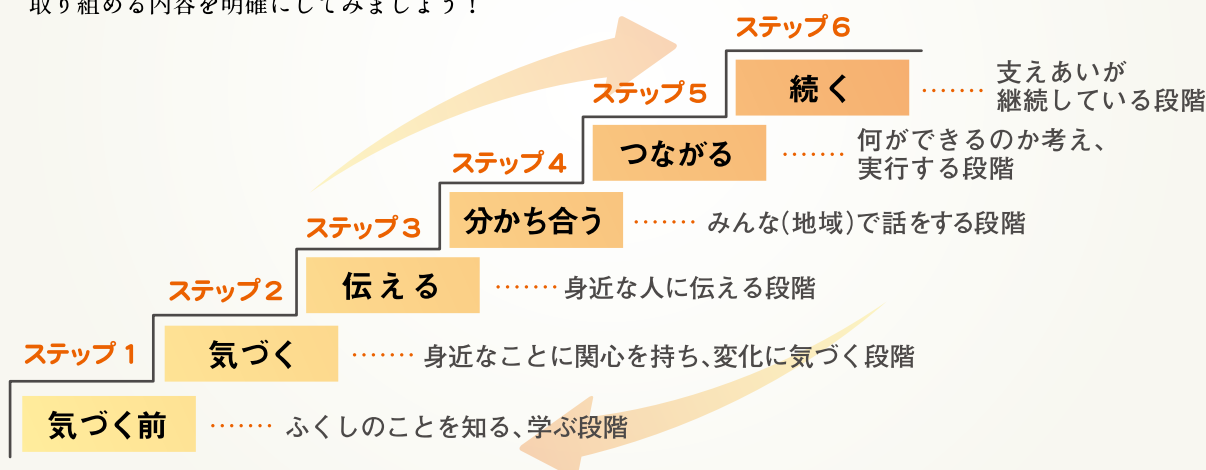


- 1.取材で出会った福祉施設にて。
- 2.知りたい！学びたい！伝えたい！
そんな単純な気持ちから始まった
ankoの活動は、想像を超え、多くの
の方々に応援していただけるよう
になりました。

改めて地域福祉について考えてみよう！

わたしたちが住んでいる地域の福祉活動計画って？

ふだんのくらしのしあわせを実現するためには、日ごろから小さな変化に目を向けることや人と人とのつながりが大切だと考えます。ふくしや地域への関心の度合いを「ステップ方式」で確認し、それぞれの立場で取り組める内容を明確にしてみましょう！





しゃきよんが行く!

こんにちは！南アルプス市社協マスコットキャラクターの“しゃきよん”です。
 今回は、南アルプス市認知症の人と家族の会
 やまびこの会の認知症カフェ「オレンジカフェやまびこ」
 にお邪魔し、会長の猪狩さんにインタビューしてきました。



しゃきよん やまびこの会はどんな活動をされているのですか？

猪狩：認知症の人やその家族、地域のだれもが「認知症になってもだいじょうぶ！」そう思えるように、認知症の予防や理解につながるよう活動しています。

しゃきよん どんな思いでこのカフェを開催していますか？

猪狩：私自身も介護していた義母と気兼ねなく出かけられる場所が欲しかったのです。そのころ認知症カフェは無かったのですが、そんな思いをケアマネジャーさんに話し、やまびこの会を知りました。会の皆さんに支えてもらったあの頃の私のように、日頃から感じている悩みや不安なことを、なんでも話して息抜きできるところ、そんな居場所づくりになればと思っています。



しゃきよん 今回のカフェでは、参加者全員が絵馬に今年の願いを書いて発表していました。介護の悩みやコロナ禍の話、いろんな話が聞かれ和気あいあいとした時間が流れていました。カフェはどなたでも参加できますが、やまびこの会員も随時募集中だそうです。

評議員の紹介

新たに評議員に選任された方をご紹介します。(敬称略) (任期 令和3年6月まで)

白 根	芦澤 英子	市 全 域	小 池 正 夫
-----	-------	-------	---------

善意によるご寄附 ありがとうございます

●ご寄附いただいた金品は貴重な財源として社会福祉事業推進に役立たせていただきます。
 (順不同) (令和2年6月11日～令和3年1月31日までのご寄附)

- 日野谷紀美子 様……………タオル50本
- 南アルプスライオンズクラブ 様……………食糧品
- JA南アルプス市Aコープ甲西店 様 ……手作りマスク50枚
- 裁縫ボランティアイエローくらぶ 様…手作りマスク180枚
- 源にここサロン 様……………雑巾110枚
- 手塚和夫 様……………手作りマスク330枚
- 橢形環境トリサイクルの会 様……………50,000円
- ゆたか花水木会 様……………10,000円
- トヨタ自動車東日本労働組合 様……………31,404円
- 匿名……………学生服
- 田嶋亜美 様……………本、画材
- 南アルプス市グラウンド・ゴルフ協会橢形支部 様 ……5,000円



手塚和夫 様



裁縫ボランティアイエローくらぶ 様

南アルプス市社協ホームページへのQRコードはこちら



南アルプス市社協フェイスブックのQRコードはこちら



南アルプス市社協 検索

社協について ご意見ご感想をお寄せください

〒400-0332 南アルプス市鏡中條 1642-2
 南アルプス市社会福祉協議会「社協 意見・感想係」
 e-mailでも受け付けます。
 info@minami-alpsshakyo.or.jp

【発行】
 社会福祉法人 南アルプス市社会福祉協議会
 〒400-0332 南アルプス市鏡中條 1642-2
 TEL055-283-8711(代) FAX055-283-4167
 URL http://www.minami-alpsshakyo.or.jp/

